

小 春 日 和

こ は る び よ り

2013年 第22号

発 行

愛媛県立中央病院

松山市春日町83番地

TEL:089-947-1111

<http://www.eph.pref.ehime.jp/epch/>



小児医療センターを開設しました

愛媛県立中央病院

小児医療センター長 石田 也寸志

新病院移転・開院とほぼ時を同じくして、平成25年4月に小児医療センターが新設されました。

こどもは国の宝であり、日本の将来はこのこどもたちに託されています。少子化・核家族化が進んでいる日本の現状では、多くの親御さんが子育てに悩み、お子さんの発育や病気に対してナイーブになる一方で、発達障害のあるこどもの増加、アレルギー疾患や児童虐待の増加を始めとしてこどもを取り巻く社会環境も必ずしも良くなっているわけではありません。

当院総合周産期母子医療センターでは、新生児救急車「あいあい号」の搬送システムをはじめとして、既に日本でトップレベルの分娩・出産・新生児管理を実現しています。しかし、時には種々の困難な問題を抱えたお子さんも産まれてきます。

またかつては致死的で治療の難しかった多くの病気が、お薬や手術など治療の進歩によって、今では救命できるようになりましたが、その反面治療後に色々な合併症を抱えたこどもさんが増加することになり、長期的な療育も大きな問題になってきました。



(病室入り口)

病気で闘病するお子さんやご家族にとって、入院病棟の環境は極めて重要と思われます。

新病院では、プレイルームと院内学級の拡充、個室の居住性の向上の他、4人部屋も広くなりそれぞれにトイレと手洗いが完備されました。

ナース・ステーションはカウンター方式で開放的になりました。

以前は不便であったエレベーターも患者・家族専用のものが整備され、病棟のセキュリティも万全です。

このように新病院ではハード部門の整備は進みましたが、医療において一番重要なのは、その中で働く医療スタッフのソフト面での相互協力だと考えています。

当小児医療センターでは、小児科(小児内科)と小児外科の緊密な協力体制のもと、形成外科、脳外科、整形外科、泌尿器科、耳鼻科、眼科などを含めて総合的にこどもの健康問題を考えていきます。

また看護師、臨床心理士、院内学級教師、保育士、ソーシャルワーカー



(院内学級)

カーなど多職種でチームとして診療していきたいと考えています。

また愛媛県の3次救急を担っていることから、高度・専門医療に関しても愛媛の小児医療の最後の砦として、未来を担うこどもたちのために努力していきます。

今後とも、ご支援をよろしくお願いいたします。



(ナース・ステーション)

小児医療センター開設記念 医療連携懇話会 が開催されました

去る7月6日に松山市いよてつ高島屋ローズホールにおいて、小児医療センターの開設を記念し、第23回目の医療連携懇話会を開催いたしました。



(懇話会の模様)

連携病院の先生方をはじめ多くの方々のご出席のなか、石田 小児医療センター長による『愛媛県立中央病院小児科・小児外科のこれまでのあゆみ』が紹介された後、『21世紀の小児医療』と題した愛媛大学医学系研究科医学専攻 分子・機能領域小児科学講座 石井榮一教授による特別講演及び『日本小児外科学会のあゆみと展望～50年を振り返って～』の演題で九州大学大学院医学研究院 小児外科分野 田口智章教授による特別講演をいただき有意義な懇話会となりました。



愛媛県イメージアップキャラクター
みきゃん



(石田センター長の講演)



(石井教授による特別講演)



(田口教授による特別講演)



健康へのみちしるべ

－ 第19回 －

肝に銘じて

愛媛県立中央病院 消化器内科

部長 平岡 淳

沈黙の臓器「肝臓」は寡黙に私たちの体を支えてくれています。一家（＝全身）を献身的に支えてくれる控えめで優しく美しい母親のようなものではないでしょうか。肝臓はきれいな三角形をした、はり艶のある臓器です。

その優しく美しい肝臓をいためてしまう慢性疾患の代表として脂肪肝、アルコール性肝炎（肝硬変）、B型・C型慢性肝炎（肝硬変）があります。

脂肪肝は生活習慣病の初期の表現といってもよいでしょう。過剰な栄養摂取をした場合、内臓脂肪がたまり始めるよりも早く肝臓に脂肪が沈着をはじめることが動物実験からも証明されています。この余分なものを私がなんとか処理をしなければ、と働き者の肝臓が頑張ってくれる結果でしょうか。中には肝機能検査異常を示して、（お酒を飲んでいなくてもアルコール性の肝炎と同じ炎症が起こり）肝硬変にゆっくりと進行してしまうことも多いのです。脂肪肝はメタボリックシンドロームの原因である内臓脂肪蓄積の初期段階といえます。歪んだ食生活習慣（間食、清涼飲料水摂取）の放置、運動習慣の欠如が生活習慣病へと一気につながります。たった2%余分なカロリーを毎日強制的に摂取したとすると10年後には体重が25kg近く増えてしまうという試算もあります。ご自身の生活習慣をしっかりと見直して生活習慣病や肝硬変につながる脂肪肝にはならないように気を付けて頂きたいものです。

また、酒は百薬の長ともいいますが、アルコールを多量にずっと飲み続けることで肝硬変に至ります。肝硬変や糖尿病、慢性膵炎などを引き起こされて弱っていきます。たしなみ程度にとどめなければお酒は毒でしかないのです。

B型肝炎ウイルスは抗ウイルス療法の進歩で、活動性の肝炎がある場合はウイルスを抑え込んで肝硬変への進展を阻止する治療が確立されました。C型肝炎ウイルスはインターフェロン治療の発展に伴い、徐々に排除できるウイルスになってきています。噂では次世代の治療薬も近々登場するとのことで期待されます。エイズやB型肝炎の異性（同性）間感染など性病予防も含めた性教育、薬物汚染による針の回し打ちや不潔な針を用いた刺青による肝炎ウイルスの拡散がこれ以上起きないように、若い世代に社会教育を地道におこなっていくことがウイルス肝炎撲滅に向けてこれからより大事になります。

さて、慢性肝炎から初期の肝硬変程度なら肝臓は黙々と働いてくれますが、肝硬変もより進行してくると、知らないうちに体が弱ります。ある日突然体がむくんだり、お腹に水がたまったりします。時にアンモニアを肝臓が処理しきれなくなり肝性脳症を起こして病院に運びこまれることもあります。沈黙の臓器が初めて出す声は悲鳴なのです。あの若々しく美しかった肝臓もこの頃になると表面は明らかに凸凹してきて、今まで耐えてきた苦労が画像（エコーやCT）でもよくわかるようになります。そして時に肝がんが出てきます。肝がんも無症状で発生・進行していく怖い病気です。喫煙歴があるだけで肝がんの発がん率、死亡率は9倍に跳ね上がるといわれます。肝がんの治療も進歩を続けていますが、やはり発がんしないように肝疾患の予防・進行阻止をしなければなりません。慢性肝疾患は生活スタイルによっては複合していることが多く、肝炎のある方たちには禁酒はもちろん禁煙、生活習慣病予防も非常に大切なのです。肝臓への負荷を避ける意味でも若いうちから生活習慣病にかかりにくい食生活や習慣を心掛けて頂きたいものです。

これらの肝臓の病気は第一に予防につきます。肝臓に脂肪をつけない生活を心掛ける（適正な体重を目標とし

て適度の運動を心掛けて、暴飲暴食は避ける)、肝臓をアルコール漬けにしない生活をする(休肝日を設ける、ウイルス肝炎があるのなら禁酒をする)、体の中に肝炎ウイルスを持ち込まないように心掛ける(違法薬物に手を出さない、刺青は絶対しない)。この三つを肝に銘じてください。美しい肝臓は決して表に出ずに、ずっと私たちを健気に支えてくれているのです。俺の言うことを聞け!と「肝に命じる」のではなく、あなたを一生大事にします!と甘いプロポーズのように「肝に誓って」あげましょう。みなさん「肝に銘じて」守ってくださいね。

◆病病連携・病診連携◆

連携医療機関のご紹介～第1回～

※当院は、平成22年10月29日に『地域医療支援病院』の承認を受けています。

このコーナーでは、紹介・逆紹介によって互いに連携を図っている医療機関を随時ご紹介させていただきます。(紹介順序につきましては、順不同ですのでご了承ください。)

I 医療法人財団尚温会 伊予病院



○所在地：伊予市八倉 906 番地 5

○TEL：089-983-2222

○FAX：089-983-1648

○診療科目：内科・リハビリテーション科・小児科・麻酔科・循環器内科

○病床数：290 床(回復期リハ：218 床 亜急性期：5 床 一般病床：67 床)

○外来診療時間(予約制)：午前 9：00～12：00

(日、祝祭日、12/31～1/3 は休診)

○病院の理念

『われわれは、皆様が身体的及び精神的に健やかな毎日を送ることができるよう援助し、身体機能を回復させ各種の障害を軽くすることに専念し、在宅復帰ができるよう最大限の努力を致します。』

○病院の概要

- ・松山市の南に位置し、眼下に道後平野を一望できる景勝の地に、昭和 52 年 11 月、高齢者医療の一翼を担う病院として開設され、医療、保健、福祉の諸制度の変革に伴い、リハビリテーション医療を中心とした病院へと特化していきました。
- ・回復期リハ病棟 218 床を有し、松山医療圏を中心に県内急性期病院との連携のもと、脳卒中や大腿骨骨折などで障害を有した方々の回復に向けたリハビリテーション医療を行っています。
- ・早期から積極的にリハビリテーションを実施し機能障害を改善し、能力(活動性)を高め、社会参加を促すリハビリテーション医療を目指しています。
- ・ISO9001 を平成 13 年から維持

皆さんに健康で過ごしていただくためには、皆さんご自身にも知っていただくと安心なことがあります。医療現場で働く私たちは、安全に業務を遂行するために医療安全あるいは感染対策の研修を毎月実施するなど日々努力をしています。私たちは、皆さんにも安全について理解していただき協力していただければと考えています。

そこで、皆さんにも安全な医療を受けていただくために気を付けていただきたいポイントをご紹介します。

I 普段からご自身の健康状態を観察しましょう

今日は、「なんだか気分がすぐれない」「熱がありそうだ」「咳が少しでているな」など、いつもと違うと感じたときは、早めに医療機関を受診しましょう。「まだ大丈夫・・・」が命取りになることもあります。「救急病院に行けばいいや」とお考えになる方もいらっしゃるかもしれませんが、救急病院は、あくまでも一時的な対応をするところで、必ずしも十分な検査が行えるとは限りません。

また、専門医が常駐するわけでもありません。

ご自身の健康状態を把握して、きちんと医療機関を受診することをお勧めします。

II 薬は正しく飲みましょう

定期的に病院で投薬を受けている薬はありますか。そのお薬について、医師や薬剤師から説明を受けて、正しく服用していますか。自分で勝手にやめたり、飲む回数を調節したりしていませんか。

正しく服用しないとかえって体に悪影響を生じてしまう薬もあります。

また、さまざまな医療機関を受診している方は、必ずお薬手帳を持ちましょう。お薬手帳は、災害の時にも大変貴重なあなたの体を知る道標になります。

今回は、2つのことをお伝えしました。次回をお楽しみに・・・

『無料送迎タクシー』

松山市駅～県立中央病院間で運行しています。

《運行概要》

- 松山市駅～県立中央病院往復
- 平日の8:30～14:30
- ※土、日、祝日は運行していません。
- 運行間隔は概ね15分
- 公共交通機関や周辺契約駐車場の利用と併せてご活用ください。



平成26年3月には、第Ⅱ期工事が完成します。

現在は、1階『光のプラザ』の工事中で手狭な感じとなっておりますが、来年3月にはメインエントランスを含む『光のプラザ』が完成し、1階外来部分が広がります。しばらくご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。



病院サービス委員会では、「^{えがお}愛顔とあいさつがあふれる病院」を目指し、患者さんの視点に立った病院サービスが提供できるよう、さまざまな活動を行っています。

◆ボランティアに関する活動

現在、“すべては患者さんのために”をモットーにボランティア活動に参加していただける方の募集活動を行っています。

ボランティア募集

患者さんに安心して治療を受けていただくよう、ボランティアの方を募集しております。^{えがお}みなさんの愛顔(えがお)と温かいお気持ちを提供していただき、患者さんに寄り添った活動をしていただけないでしょうか。

病院ボランティアとは病院内で職員と協力して、患者さんに少しでもよい療養・受診をしていただけるように、自発的に活動していただく方のことです。

病院ボランティアは医療の専門的な仕事ではありませんが、院内には免許・資格がなくともできることが沢山あります。病院の趣旨を知っていただき、地域と病院の橋渡しができる楽しい活動です。また、その活動を通して幸せな喜びと患者さんからいただく活力を感じていただくこともできます。

活動内容 *玄関前でのお出迎え・誘導・車椅子介助
*自動再来受付機、自動支払機の使い方の説明および案内等

活動日時 月曜日～金曜日（祝日を除く）
8時30分～17時（この時間帯でご希望の時間）

活動場所 愛媛県立中央病院 松山市春日町83番地

申込資格等 特にありませんが心身ともに健康な方
ご希望の活動日時等についてはご相談させていただきます

お問い合わせ・申し込み先
 *愛媛県立中央病院
 病院サービス委員会(ボランティア担当) 渡邊・上甲
 *電話(代) 089-947-1111 内線 7282 or 7504
 *ボランティア登録申し込み先
 FAX 089-943-4136 または
 アドレス c-ikusank@eph.pref.ehime.jp

◆職員の接遇向上に関する活動

「いつも^{えがお}愛顔とあいさつを」をテーマに、ポスターの掲示や接遇研修を実施し、職員の意識向上に取り組んでいます。

^{えがお}いつも **愛顔** と **あいさつ** を

職員一人ひとりが
病院の“顔”です

★身だしなみチェック★

- ①髪は整っていますか？
- ②ユニフォームは汚れていませんか？
- ③爪は伸びていませんか？

→鏡の前で、チェックしてみましょう！！

病院サービス委員会

◆禁煙推進に関する活動

5月27日に職員を対象とした禁煙講演会を開催し、受動喫煙の健康被害について学びました。また、職員による病院敷地周辺の美化活動も行っています。

禁煙講演会ご案内

日時 平成26年5月27日(月)
17:30～18:30

開催場所 研修棟 講堂

司会 禁煙推進部会 柳田 三寿 氏

(次賓) 研修部長 松田 久美子 氏

講演 「受動喫煙について」

講師 呼吸器内科 部長 井上 幸司 先生

主催 病院サービス委員会・禁煙推進部会
後援 愛媛県立中央病院